

浦和明の星女子中学・高等学校

1、目指す学校像 一人ひとり「特別な存在」として大切にす教育

2、重点目標

1) 学校全般

○建学の精神を支える「正・浄・和」の「明の星教育」を中高一貫教育の中で実現する。

校訓「正・浄・和」の中でも、今年度は特に「和」について考えを深め、「ほんとうの和を生きる」とはどんなことかを、様々な角度から見つめ、個々の実践へとつなげていく。

校長からの「手紙」という形で行ったアssenブリの内容は、常に今年度の実践目標を生徒達に意識づける内容であり、理解しやすい具体的な例を提示した。そして個々が毎日の学校生活の体験と重ね合わせ、「本当の和を生きる」ことの大切さ、意味の深さの理解に努めて行った。

今年度はコロナ禍において、特に物理的な距離を超えた中での「和を生きる」を意識し理解を深めていった。

毎日の朝礼の話の中でも、事あるごとにこのことに触れ、生徒達の実感としての「和を生きる」の理解が深められた。

＝達成度 A

2) 教育

○中高一貫教育の中で、学習指導・進路指導の徹底をはかる。

充実した学習指導と共に、学びの中から生まれる喜びや発見が、自らの心の豊かさ、向上につながるよう指導。また明の星での6年間を終えた後も、「最善の私」としての生き方を追い求める学びの素地を創る。大学進学に特化した進路指導ではなく、常に自己の内面と向き合い、「最善の私」としての歩みの実現を助ける進路指導を行う。

学力定着、伸張を図る学習指導、到達目標達成および大学入試、志望進路にむけた具体的学習指導を行った。

また、生徒との面談を行い、学習状況および自己実現にむけた志望進路を把握することに努めた。

教科会等で、より良い授業作りの研究、研修会への参加等により、研鑽を積んだ。

教員による学習到達目標に対する授業評価は、概ね良好。

志望の進路決定に関しても、多くの生徒達が真の自己実現に向けた選択を行うことができた。

=達成度 A

### 3) 広報

○明の星教育を広報する方法を確立する。

明の星の目指す教育内容を幅広く多くの人に広報する。

教員一人ひとりが明の星教育を理解し、一体となって広報活動に努める。

入試広報業務の改善、再検討。

学校見学会、学校説明会の実施。 学校紹介パンフレット・DVD新聞の作成。 中学校フェア等への参加。

コロナ禍において、学校見学会の実施が困難の中、校長による明の星教育についての動画の配信、インターネットを活用した予約制の学校説明会が無事実施されたことにより、ほぼ例年同様の入学志願者が集まった。

=達成度 A

### 4) 財務

○安定した財務管理

計画性のある予算の組み立ての中から、その都度の必要性に応じ、確実な予算執行が達成された。

=達成度 A

達成度 A ほぼ達成 B 概ね達成 C 変化の兆し D 不十分

## 2020年度学校関係者評価

浦和明の星女子中学・高等学校

### 学校関係者評価委員会

日 時 2021年3月31日

関係者 学校関係 : 校長 高校教頭 中学教頭 事務長  
正和会 (保護者会) : 会長、副会長三名

※ 書面にて実施

1. 建学の精神を支える「正・浄・和」の「明の星教育」を、中高一貫体制の中で実現する。を中心に三つを重点目標とし取り組んでいる。
2. 学校関係者からの意見

### 教育方針・教育環境について

コロナ禍における学校生活においては、先ず生徒の心身の健康と安全を第一に考えた学校の対応により、安心して過ごすことができたことに感謝したい。

また、休校中、毎週校長先生から配信されるメッセージ、および、本来的な生徒の自発的・能動的な学びを尊重し、補完的位置づけとしての動画配信により、明の星生として自覚を維持しながら学びを止めず、心のつながりをもって、安心して過ごすことができた。

### 意見・要望等について

- ① 学校説明会や入試手続き等に、インターネットを活用した取り組みは、時代の流れに沿った対応で、今後も活用が期待される。
- ② 夏休み、冬休みの短縮、10月中旬までの土曜授業実施などにより、例年同様の質の高い授業が実施されたことに安堵した。
- ③ 生徒がそれぞれ真剣に自分を見つめ直し、具体的に将来を考え、自己実現に向けた努力につながる「ほんものの私」としての進路指導と、具体的進路指導の一致が素晴らしいと感じた。
- ④ 動画配信の教科が、もう少し多ければ、と感じた。
- ⑤ 「ほんものの私」の実現にむけ、進路決定における細かな情報、例えば志望大学に応じた選択科目の情報、卒業生の実績、体験談などを集めたものを作成し、それらを進路指導室で、いつでも自由に閲覧できる環境が整う事を希望する。
- ⑥ 卒業生が実際に行った受験勉強の方法や、使用テキストなどの情報を、在校生に提供してほしい。

# 2020年度 浦和明の星女子中学・高等学校 第三者評価

## 1. 学校全般

○建学の精神を支える「正・浄・和」の「明の星教育」を中高一貫教育の中で実現する。

今年度は特に「和」について考えを深めた。校長からの「手紙」という形で行ったアssenブリの内容は、常に今年度の実践目標を生徒達に意識づける内容であり、理解しやすい具体的な例を提示した。

個々が毎日の学校生活の体験と重ね合わせ、「本当の和を生きる」ことの大切さ、意味の深さの理解に

努めて行った。また補完的位置づけとしての動画配信により、明の星生として自覚を維持しながら学びを止めず、心のつながりをもって、安心して過ごすことができた

## 2. 教育

○中高一貫教育の中で、学習指導・進路指導の徹底をはかる。

充実した学習指導と学びの中から生まれる喜びや発見が、自らの心の豊かさ、向上につながっている。また卒業後も、「最善の私」としての生き方を追い求める学びの素地を創れている。大学進学に特化せず、

常に自己の内面と向き合い、「最善の私」としての歩みの実現を助ける進路指導を行う。教科会等で、より良い授業作りの研究、研修会への参加等で研鑽を積んだ。結果、教員による学習到達目標は良好な状況、生徒たちの進路選択も自己実現に向けたより良い選択を生徒に促すことができた。大学入試改革に関する情報収集のための教員研修会も実施した。

## 3. 広報

○明の星教育を広報する方法を確立する。

教員一人ひとりが明の星教育を理解し、一体となって広報活動に努めている。入試広報業務の改善、再検討を実施している。学校見学会、学校説明会の実施や学校紹介パンフレット・DVD・新聞の作成、中学校フェア等の参加などを実施した。コロナ禍で広報に支障が出る状況であったが、校長による明の星教育についての動画の配信、インターネットを活用した予約制の学校説明会が無事実施されたことにより、ほぼ例年同様の入学志願者が集まった。

## 4. 財務

○安定した財務管理

計画性のある予算の組み立ての中から、その都度の必要性に応じ、確実な予算執行が達成された。

以上